

序論)

先週はイザヤ書 44 章の前半を通して、【主】だけが聖霊という私達を活かす生ける水を与えてくださるお方であり、世界の最初と最後を定めておられる唯一の神様である。ということ学びました。

今日の箇所はそれとは対照的に偶像や偶像を作る者、そして偶像礼拝者の愚かさを語っている箇所となっています。この箇所は、旧約聖書の中で偶像の本質を最も視覚的に表現している箇所といわれています。

1) 偶像に関する 3 つの本質

まずは 9 節から 11 節を読んでみましょう。

44:9 偶像を造る者はみな、空しい。彼らが慕うものは何の役にも立たない。それら自身が彼らの証人だ。見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。

44:10 だれが神を造り、偶像を鑄たのか。何の役にも立たないものを。

44:11 見よ、その人の仲間たちはみな恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて、ともに恥を見る。

ここでは偶像に関する 3 つの本質を語っています。その 3 つの本質とはなにかというところの 3 つになります。

①偶像を造る者（偶像礼拝者）は、みな空しい。

②偶像は何の役にも立たない。

③偶像作成者と礼拝者は恥を見る。

なぜこのように言えるかは続く御言葉を見ていくとして、この 3 つの本質の中でもっとも【主】がいたいことは①番の「偶像を造る者（偶像礼拝者）は、みな空しい」ということです。「空しい」というのは、中身がない。実りがない。意味のないものだということです。偶像は人に中身のない空しい人生を歩ませるものなのです。

では、みなさん。なぜ、偶像や偶像礼拝は中身のないものといえるのでしょうか？。聖書は偶像について 3 つの視点で分析しています。

## 2) 偶像についての3つの分析

### ①偶像作成

偶像についての分析の1つ目の視点は偶像作成者です。

みなさん、偶像ってどうやって作られるのでしょうか。今日の箇所はその偶像の作り方を12節や13節で細かく描写しています。まずは12節を読んでみましょう。

**44:12a** 鉄で細工する者は工具を用い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。

ここまでいいですね。偶像に使う鉄の部分をつくる人は、細かい細工をするための道具を使います。さらには、鉄は固いので炭火の上で熱を加えて柔らかくして細工をします。さらにさらに、それでも鉄は固いですから金槌で一生懸命鉄を叩いて、力をこめて作成します。だから、その鍛冶職人の腕は大きな力こぶができるような腕になっています。偶像の鉄の部分はそうやって人が一生懸命力を込めて作成するわけですね。するとどうなりますか。12節の後半を読みます。

**44:12b** 腹が減ると、力がなくなり、水を飲まないと、疲れてしまう。

つまり、人々が神として拝む偶像を造る人も結局、飢えるし、渴くし、疲れてしまう只の人だということです。

対して創造主なる神様はどのようにしてこの世界をお造りになったのでしょうか？ 一生懸命、素材を叩いて疲れながらこの世界をお造りになったのでしょうか？ いいえ、神様はおことば一つでこの世界をお造りになりました。「光あれ」といって光ができ、「乾いたところが現れよ」といって陸地ができ、「地は植物を、・・・芽生えさせよ。」といて地上の植物ができ、「水には生き物が群がれ。鳥は地の上、天の大空を飛べ。」といて魚や鳥が生まれました。神様は基本的にはお言葉一つでこの世界をお造りになりました。そして、七日目に安息日を定められましたけども、それは神様が疲れたからではなくって創造された世界を祝福するために定められたのです。だから、イエス様は「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたものではありません。」(マルコ 2:27) と言われました。

みなさん、このように比べてみると、偶像の作成者とこの世界を造られた神様とは全然違うことがわかります。

偶像の作成者は飢えも疲れも渴きもするただの人、一方、世界の創造主はおこと

ば一つで世界をお造りになるまことの神様です。そして、偶像礼拝者は、神様ではない、本当にただの人が一生懸命作っただけの像をありがたがって、神として拝んでいるのです。みなさん、これがどれほど中身のないことかわかりますよね。

もし神様が、神様ご自身でご自分を現す存在として神の像を造ったのならば、それは拝むべきものということができるでしょう。しかし、この世にあるあらゆる神の像は、ただの人が一生懸命造っただけの存在なのです。それは観賞用の芸術として見ることはできても、拝むに値しないものです。

## ②偶像のモデル

偶像に対する神様の分析の2つ目を見てみましょう。神様は次にどのような視点で偶像を分析されているかということ、偶像のモデルという視点です。13節を読みましょう。

**44:13** 木で細工する者は測り縄で測り、朱で輪郭をとり、かんなどで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の立派な姿に仕上げ、神殿に安置する。

今度は木で偶像を作る人を神様は例に挙げられています。ここにも木工職人の偶像の作り方が詳しく語られていますが、注目していただきたいのはこの偶像が何の形に造られているかです。

みなさん、何の形に偶像はつくられていますか？ そう人の形です。まあ、厳密にはこの世の偶像は人だけではなくて、金の子牛であったり、ヤギであったり、色々な形があるわけですけども。でも、結局は神様がお造りになったこの世の存在、神様の被造物を参考にして神っぽく見えるように立派な形に整えて、偶像の神殿に置くのです。

偶像作成者たちは、誰もまことの神様をみたことがありません。そのため彼らは、神様を見てその見た通りに神様の像を作っているわけではありません。神様がお造りになった被造物を参考にして、それをアレンジして神様っぽく仕上げているだけなのです。じゃあ、なぜ多くの偶像のモデルとして人の形が使われているかというと、まことの神様が人間を神のかたちとして創造してくださったからです。有名な創世記の箇所を読みます。

## 創世記 1:27

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

とある通りです。とはいってもこの「神のかたち」というのは、目に見える形ではなくて霊的な形ですから、見た目だけ人のかたちを真似たとしてもそれが神様の物理的なかたちというわけではありません。それでも、やはり神様の被造物の中で一番神様に似ている存在はやっぱり人間なのです。

だから、人は、神様が、神のかたちお造りになった人間をモデルとして、偶像作成者し、これが神だよと言っているのです。

みなさん、この偶像作成者たちが作った像が神様だといえるのでしょうか？ 言えませんよね。神様を見て造っているわけじゃないですから、当然、偶像のかたちは神のかたちではないのです。人や他の被造物を参考にしてつくられた偶像は神様の作品を真似して造った偽物でしか無いのです。

### ③偶像の素材

そして、神様の偶像についての分析の最後、3つ目の視点は偶像の素材です。みなさん、偶像は何を素材にしてつくられているのでしょうか。木工職人が作った偶像は木を素材にして作っていますね。14節を読みましょう。

**44:14** 杉の木を切り、うばめ樫や樫の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。月桂樹を植えると、大雨がそれを生長させる。

偶像の素材は、人が自分たちのために育てた木であったり、神様が大雨を降らせて、その恵みの雨によって成長した月桂樹だったりするのです。

変な言い方になりますが、仮に神様ご自身が、自らを素材にして造られた像であったら、百万歩妥協して、それは神様といえないこともないような気がします。

でも、人が作った偶像は神様から作ったものではないのです。人が選んで育てて、もしくは神様の恵みの雨によって成長したただの木なのです。

だから、この木は人によって幅広く使われています。15節と16節には非常に皮肉的なことが書かれているので読んでみましょう。

**44:15** それは人間のために薪になり、人はその一部を取って暖をとり、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、これを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。

**44:16** 半分を火に燃やし、その半分の上で肉を食べ、肉をあぶって満腹する。また、温まって、『ああ、温まった。炎が見える』と言う。

つまり、偶像の素材になっている木は、いいように人間に利用されているだけのものでしかないのです。大元は神様の恵みによって成長した木ですが、木は人間に利用される存在であり、人間に簡単に燃やされてしまうようなものが、偶像の素材となっているのです。

偶像が本当に神であるのならば、人よりも優れた存在、力がある存在であるべきなのに、実際に偶像の素材になっているものは、人に利用されるだけのただものです。だから、素材という意味でも偶像が神になれる要素は一つもないのです。

しかも皮肉なことに、偶像がただの木であるのならば、それを拝んだり、祀ったりするよりも、薪にして暖炉にくべたり、料理に使ったりしたほうが、よっぽど人間にとって益になるものなのです。16節のみことばは偶像も薪にしたほうが人を満腹させ、温めるという皮肉です。

実際、木で造られた偶像はそのようなものなのです。偶像を、燃やさないで像の形で置いておくだけならば、それはあたたかめてもくれないし、人を満腹にさせてもくれない。役立たずです。そのような偶像に拝んだり、頼ったりすることは、どれほど中身の無い空しいことでしょうか。

### 3) 偶像礼拝者の実情

だから、結局偶像礼拝者たちがやっていることはどのようなことかということ、薪の別の姿を、ありがたがって拝んでいるだけに過ぎないのです。17節を読みましよう。

**44:17** その残りで神を造って自分の偶像とし、ひれ伏してそれを拝み、こう祈る。  
『私を救ってください。あなたは私の神だから』と。

みなさん、偶像は、人が作り、人がモデルとなり、薪になるようなもので造られたものです。その偶像を神と言えますか？ 言えません。ただの人の作品以外のなものでもないのです。偶像礼拝者はそのような人の創作物でしかないものに助けを求めるような滑稽なことをしているのです。

さらに言えば、偶像礼拝者たちは自分たちが愚かなことをしていることに気づいてもいないのです。18節、19節を読みましよう。

**44:18** 彼らはよく知りもせず、理解もしない。その目はふさがれていて見ることもできず、その心が賢くなることはない。

44:19 彼らは考え直すこともなく、このように言う知識も英知もない。『私は、その半分を火に燃やし、その炭火の上でパンを焼き、肉をあぶって食べている。それなのに、その残りで忌み嫌うべきものを造り、木の切れ端の前にひれ伏すのか。』

冷静に考えれば人によって造られた偶像は人を救うことなど、できない役立たずであることがわかるはずなのに、偶像礼拝に染まるとそれすらもわからなくなるのです。

そして、偶像礼拝者たちは、自分たちが作った偶像に騙され、ついには疑うこともしなくなります。20節を読みます。

44:20 灰を食物とする者は、心が欺かれ、惑わされて、自分を救い出せず、『私の右の手に偽りはないか』とさえ言わない。

「灰を食物とする」というのは、今までの話を整理するとわかると思います。偶像は、結局、燃やせば灰になる薪と同じなのです。だから、偶像に頼るということは、何の栄養にもならない灰を食べていきるような人生ということです。

当然、そのような生き方では救われなし、真理に通じる疑問を持つことさえできなくなってしまうのです。

## 結論)

だから偶像や偶像作成者、そして偶像礼拝者はみんな空しい人生を歩んでいます。みなさん、今日は、神様の偶像に対する分析から偶像礼拝がどれほど空しいものなのかを改めて確認しました。

とはいっても、ここにおられる方、また Youtube を通して共に礼拝されている方の殆どはこのような人の手で造られた偶像を拝んでいる人は殆どいないと思います。では、私達は偶像礼拝とは無縁なのでしょうか。いいえ。そうではありません。偶像礼拝は人の手で造った像を拝むだけではありません。コロサイ人への手紙3章5節にはこのように書かれています。

## コロサイ人への手紙3章5節

3:5 ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして食欲を殺してしまいなさい。食欲は偶像礼拝です。

何が偶像礼拝だと書いていますか？ そう貪欲です。

例え木で作った像を拝まなかったとしても貪欲に支配されるならば、それは偶像礼拝をしていることになるのです。「貪欲」とは、人の心を神様から引き離し、この世の物で自分を満たそうとする事です。性的な快楽によって自分を満たそうとしたり、ひたすら食べることで自分を満たそうとしたり、インターネット通販で色々なものを買うことで自分を満たそうとしたりすること、それが貪欲であり、偶像礼拝です。遺産相続の争いなど、貪欲ゆえに生じることが殆どです。

だから、様々な奇跡をおこし有名になったイエス様に頼って、なんとか遺産を手に入れようとしていた人たちに対してイエス様はこのように言われました。

### ルカの福音書 12章 15節

そして人々に言われた。「どんな貪欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っているても、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」

みなさん、私達のいのち。特に永遠のいのちは、この世の富や財産によって手に入れることはできません。だから、どんなにこの世の物を豊かにもっていたとしても、神様との関係回復ができていないのならば滅びるしかないのです。イエス様はそのことを大きな倉を立てて死んだ金持ちの例え話で教えておられます。

みなさん、大切なのはこの世のものを貪欲に求めて、それらで満たされることではないのです。本当に大切なのは永遠の平安、永遠の満足を与えてくださる神様との平和な関係です。【主】イエスキリストはその本当の満足を私達に与えてくださるために、十字架に掛かり、救いの道を私達に与えてくださいました。

例えば、仏像などを拝んで居なくても、この世のものを貪欲に追い求めているのならば虚しく、意味のない偶像礼拝をしていることになります。みなさんは、お金や異性や食べ物、もっと言えばこの世の知恵や情報によって自分を満足させようとしている偶像礼拝をしていないでしょうか。

例えば、動画にハマりすぎてしまったり、ゲームにハマりすぎてしまうことも偶像礼拝といえるでしょう。それらは空しい人生なのです。

だから、私達は【主】イエスキリストによって神様との関係を回復し、【主】によって満たされる人生を求めることが大切なのです。

先週語られた神様の御言葉をもう一度思い返してみましよう。44章の6節です。

44:6 イスラエルの王である【主】、これを贖う方、万軍の【主】はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。

みなさん、私達を本当の意味で満たすことができるのは、初めであり、終わりであるお方、私達を贖い、救い出してくださる真の神様によるしかないのです。

だからこそ、「わたしのほかに神はいない」といわれる真の神。私達を贖い出し、その力強い御手で実際的に救い出してくださるまことの神様だけにより頼む者となりましょう。

それこそが、空しい人生ではなく、実りある人生の歩む方法なのです。